

令和7年度学校評価総括評価表

徳島県立板野高等学校

1 板野高等学校のスクール・ミッション

お接待をはじめとする「ボランティア活動」やキャリア教育の柱となる「インターンシップ」、地域産業やSDGsをテーマとした「探究活動」など、地域と連携した体験的な学びを通して、人とのつながりを大切にすると共に広く社会に貢献できる力を育成します。

2 板野高等学校のスクール・ポリシー

【育成をめざす資質・能力に関する方針】

- (1) 高い志と明確な目的意識を持って、自ら学ぶ意欲と行動力を育成します。
- (2) 豊かな人権感覚を持った調和のとれた人間性と自主共同の精神を涵(かん)養します。
- (3) 情報通信技術の活用能力を高め、社会に貢献しようとする公共心を育成します。
- (4) 人とのつながりを大切にすると連帯感や協調性、奉仕の精神を育成します。
- (5) 我が国や地域に愛着を持ち、様々な課題の解決に立ち向かう実践力を育成します。

【教育課程に関する方針】

- (1) 生徒の興味・関心・適性に応じた科目を選択できる単位制教育課程です。
- (2) 早期に勤労観や職業観の育成を図る「インターンシップ」を実施します。
- (3) 習熟度別授業や少人数制授業により、多様な進路希望に対応します。
- (4) 地域へ奉仕する清掃活動や「お接待」などのボランティア活動を実施します。
- (5) 文字に親しみ、心豊かな人間を育てる「朝の読書」を実施します。
- (6) 意欲ある生徒のための放課後個別学習指導を実施します。

自 己 評 価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評 価		
生徒指導の充実	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	<p>○マルナカなどで、買い物やイトインスペースで話している生徒の、服装の乱れやヤンチャな言動を見かけなくなった。</p> <p>○生徒一人一人の状況を把握し、生徒会との連携活動など組織的運営は評価できる。</p> <p>○問題行動への個別の対応も評価できるが、自己肯定感の育成等、予防的生徒指導は引き続き重視して欲しい。</p> <p>○きめ細やかな生徒指導をされていることがよくわかる。生徒が「腑に落ちる説明」が大切であると思うが、工夫している点などがあれば教えてほしい。</p> <p>○交通関係について 改善の兆しは見られるが、自転車を運転しながらスマートフォンを操作している生徒をまだ見かける。自分の命だけでなく他人への被害も考えると大変心配な状況にあると考える。ヘルメット着用の推奨にも取り組んでいただきたい。この4月から道路交通法の改正で、自転車運転に青切符制度が導入される。交通マナーではなく、ルールになるので、ヘルメット着用以外の指標を設けてもいいのではないか。</p>
	① 承認することから始まる生徒指導	① 叱るところからではなく、承認するところから始める生徒指導を実践し、生徒の成長を促す。【生徒指導課】	① 生徒の悩みや相談を丁寧に聞き、生徒と一緒に考え、解決していく生徒指導を展開した。	<p>(評定) A</p> <p>(所見) 自己肯定感の低い生徒に寄り添い、自己有用感を高める指導に努めている。頭髪指導はきめ細かく丁寧に実施している。</p> <p>生徒会としては、あいさつ運動を1学期に実施できなかったが、部活動が自主的にやってくれた。</p> <p>ヘルメット着用生徒は約11%と昨年度より向上した。今後も生徒中心の啓発活動を継続していく。</p>	
	② 正しい頭髪服装で学校生活を送る	② 頭髪服装指導を定期的に実施する。再々指導2件以下【生徒指導課】	② 毎月1回、各学年団で頭髪服装指導を行い、同じ週に再検査・再々検査も徹底して行っている。再々指導0件。		
	③ 基本的生活習慣を身につけ、何事にも積極的に取り組む生徒の育成	③-1 あいさつ運動によるあいさつの徹底 あいさつ運動(各学期1回)実施【特別活動課】	③-1 生徒会を中心に、延べ50名程度の生徒が2学期に1週間、3学期に2日間、あいさつ運動を実施した。		
	③-2 交通ルールやマナーを守る指導を徹底する。 ヘルメット着用率10%以上【生徒指導課】	③-2 自転車用ヘルメットの着用推進活動を生徒中心に実施した。交通ルールやマナーについての苦情はなかったが、粘り強く指導を重ねた。 ヘルメット着用率 11%達成			

④ 日々のコミュニケーションの充実	④ 日々のコミュニケーションを通して、いじめや暴力行為をなくす。 いじめ・暴力行為0件【生徒指導課】	④ 人間関係を構築することが得意でない生徒同士のトラブルから、いじめへと発展するケースもあったが、早期対応により重大事案には至らなかった。	SNSの利用からトラブルとなるケースが多く、継続的な指導や保護者との連携を図っていく。	○生徒同士のトラブルを早期に対応することで重大事案には至らなかったとあるが、どのようにしているのか。 ○子ども家庭支援センターで学校へ行きづらい生徒にとっては、手厚い指導してくれる学校へ進学したいという声をよく聞く。学校へ行きづらい生徒にとっては、手厚い指導してくれる学校へ進学したいという声をよく聞く。	○ 担任をはじめ学年、該当分掌、管理職等で情報を共有しながらトラブルが拡大しないよう対応をしている。必要がある場合には外部機関との連携もしている。
⑤ 制服の着こなしルールを守るための取組	⑤ 預かり指導・放課後指導を生徒指導課を中心におこなう。 預かり指導 月10件以下【生徒指導課】	⑤ 粘り強く指導を行い、預かり指導の件数は減少傾向であった。しかし、一部の生徒において制服の着崩しを改善することができなかった。預かり指導 月平均10以下達成	生徒指導課を中心として服装指導を行っているが、一部の特定生徒に違反が見られるが、素直に指導には従い改善している。		
(下位組織レベル) ① 授業、部活動等学校生活すべての場面での生活指導	①-1 生徒指導課を中心に、各学年団で定期的に頭髪服装指導を行い、事後指導も徹底して行う。【生徒指導課】 ①-2 授業の受け方(態度や課題提出等)を各教科の授業で丁寧に指導する。社会で通じる「聞く」「話す」等の態度や期日を守る習慣を授業中に養う。【学年・教科】 ①-3 すべての授業で挨拶や身だしなみを指導する。特に、体育の授業で集団行動の指導を徹底し、学校生活全般を規律あるものにする。【生徒指導課】	活動計画の実施状況 ①-1 生徒指導課を中心に、各学年団で月1回、頭髪服装指導を行い、事後指導もきめ細かく、徹底して行った。 ①-2 入学時や最初の授業時に、集会や授業の「聞く」「話す」等の態度や提出物の期日を守る姿勢を指導した。 ①-3 授業では身だしなみを確認して始めるようにした。体育の授業では、集団行動の指導を徹底することにより、基本的な生活習慣を身につけさせ、我慢すること、規律の重要性を指導した。	定期的な服装頭髪指導だけではなく、日常的にきめ細やかな指導を行っているので、教員と生徒・保護者のトラブルはなかった 学年集会では常に「聞く」態度について指導を行い、5分前集合ができ、一部の生徒を除き落ち着いた姿勢で聞くことができていた。 体育の授業では、年度当初に全学年で集団行動を行うことにより、規律の大切さや集団の中での行動について指導を行った。	○生徒指導の充実については、指導内容の一貫性や、指導した職員と生徒との間に生じる認識のずれがリスク要因となることが考えられる。今後の改善方策として示されている清掃状況のばらつき是正のためのチェックシートの活用は、取組の「見える化」を進め、認識のずれを減らす有効な手立てであると評価する。こうした見える化の取組を継続し、改善の積み重ねが担保される体制づくりを期待したい。	○ 規律ある学校生活を送れるように指導すると共に、向上心をもって学校生活が送れるよう各課の連携を一層深める。 ○ 清掃状況のばらつきを減らすため、チェックシートの内容を精選していく。 ○ 薬物乱用防止教室やスマホ安全教室においては、実施時期や他の機関との連携も検討する。

	<p>①-4 定期的にゴミの分別や清掃状況のチェックを行い、清掃美化の徹底と校内環境の整備を行い、美化意識を高める。美化チェックの達成率80%以上。【環境厚生課】</p>	<p>①-4 ゴミの分別や、校内環境の整備を行い、清掃美化活動に取り組んだ。</p>	<p>外部機関と連携して、薬物乱用防止教室・スマホ安全教室を実施した。また、北地区生指協、板野町子ども家庭総合支援センター等と連携し、巡視や情報交換を密に行った。</p>	<p>○清掃チェックシートはどのようにつくられているのか。簡易なチェックシートを生徒と共有すれば、生徒のにも分かりやすく、改善が進んでいくのではないかと。チェックシートの内容がポイントになるのでは。</p>	<p>○ ゴミの分別において、ペットボトルのキャップとラベルの分別を進めていきたい。</p>
<p>② 保護者、地域等との連絡強化</p>	<p>①-5 外部機関と連携をして、携帯電話安全教室及び薬物乱用防止教室を実施し、SNS利用マナーと薬物の危険性について考える機会をつくる。【生徒指導課】</p> <p>② 遅刻カード(授業遅刻も含む)への記入を徹底し、家庭への連絡を速やかにする。遅刻回数が多い生徒は、保護者と学年主任・生徒指導主事等との面談を実施する。【生徒指導課】</p>	<p>①-5 外部機関と連携して、携帯電話安全教室(全学年)及び薬物乱用防止教室(3年)を2・3学期に実施した。</p> <p>② 遅刻カードや入室許可証の提出を徹底させ、管理職が捺印時に指導する。担任から家庭への連絡を速やかにし、信頼関係を築いている。遅刻回数が多い生徒は、三者面談、四者面談で指導した。</p>	<p>遅刻カードや入室許可証の指導は徹底ができた。生徒の状況把握等にも活用できた。</p> <p>交通指導の効果により校門前での事故はなかった。</p> <p>カウンセリングを受けることで、自分の気持ちを言葉にすることができたと話す生徒が多くいた。担任が生徒にカウンセリングを進めるタイミングが浸透してきた。</p>	<p>○遅刻カードや入室許可証の効果的な利用方法について、生徒の意見を聞きながら検討していく。</p> <p>○ 校門前指導だけでなく、通学路における交通安全指導を検討していく。</p>	<p>○ カウンセリングマインドを基本に、粘り強く該当生徒や保護者に対応している様子が伺える。適材適所で、チームを組んでの対応よろしく願いたい。外部機関との連携も密のようだが、県立高校初となるかも知れないが、可能であれば、スクールソーシャルワーカーを置いてみてはどうか。</p>
<p>③ 交通安全指導の実施</p>	<p>③ 登校時、校門前での交通指導を行う。生徒会や野球部の協力の下、生徒主体で行う。【生徒指導課】</p>	<p>③ 登校時は2名の教員、また生徒会や野球部の協力の下、校門前での自転車と車の接触による事故がないよう、交通指導を行った。</p>	<p>登校時は2名の教員、また生徒会や野球部の協力の下、校門前での自転車と車の接触による事故がないよう、交通指導を行った。</p>		<p>○ 避難訓練や校外での活動などを通して、生徒と教職員の防災意識を一層高める。</p>
<p>④ 生徒の心身の健康</p>	<p>④ 悩みなど問題を抱える生徒やその家族、教員へスクールカウンセラーの利用を促し、スクールカウンセラーの利用状況を数値化する。【環境厚生課】</p>	<p>④ 生徒の悩みや問題行動について、関係する教員にスクールカウンセラーを交えて対応している。スクールカウンセラーへの相談件数は、2月末時点で、79件であった。生徒の相談は、20件あり、一番多かったのが、心身の健康についての相談で11件であった。</p>	<p>防災に関するイベントを呼びかけ参加を促すことにより、生徒の中に防災に対する関心を持つ者が増えてきた。</p>		
<p>⑤ 防災教育の推進</p>	<p>⑤ 防災クラブを中心に、災害に向き合う知識を身に付け、日常的に命を守る手順を考えられる生徒の育成に努める。【環境厚生課】</p>	<p>⑤ NHK防災教室in板野高校では、1年生を中心に各種の防災体験を行い、防災に対する知識を身につけることができた。緊急地震速報行動訓練においてはほぼすべての生徒が迅速に身を守る行動がとれるようになった。</p>			

<p>主体的・対話的で深い学びが得られるよう工夫された授業の展開と、基礎学力の着実な定着</p>	(全校レベル)	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) A	<p>○基礎学力が十分に身につけていない生徒への対応で、様々な工夫をされていることがよくわかる。将来につながる資格の取得をサポートしていることは素晴らしい。</p> <p>○授業を見学させて頂いた。先生と生徒が一つになって授業を進めている教室もあり素晴らしいと感じられたが外部の見学者が見ている公開授業時に、化粧をしている生徒を見かけた。板野高校の生徒指導が、実を結び始めていると感じていたので残念に思った。</p> <p>○生徒の主体的学びを重視しながら、様々な工夫を成されていることが授業の満足度に繋がっていると考える。ICT教育において、今後AIの活用の在り方に関して、検討していく必要があると考える。</p> <p>○基礎、基本の定着状況を把握するための、小人数授業や確認テストを生かして指導改善のレベル向上に勤めて欲しい。ICTの活用や教員間の連携学習の工夫により、生徒の主体的学びの幅を広げる取り組みは評価できる。</p>
	① 学習指導要領に基づく教育の質の向上	① 教育課程検討委員会を年3回実施し、教育課程および観点別学習評価の改善点について検証・検討を行う。【教務情報課】	① 教育課程検討委員会を計画通り開催し、観点別学習評価の変更点を確認するとともに、次年度に向けた方向性について協議を行うことができた。	(所見) 教育課程検討委員会を計画どおりに開催し、観点別学習評価および各教科の平均点について検討を行い、次年度に向けた改善の方向性を確認した。	
	② 基礎学力定着に向けた取組	② 定期考査に加えて、各学期に2回以上、単元ごとの確認テストを実施する。【教務情報課】	② 各教科で、各学期2回以上の確認テストを実施し、基礎学力の定着に努めた。		
	③ 習熟度別授業や少人数制授業を導入し、生徒の多様な進路希望に対応	③-1 授業内容の充実を図るため、教科会や公開授業を通じた授業研究を各学期に1回以上実施する。【教務情報課】	③-1 フレッシュ研修や県教委訪問等において、研究授業・公開授業を毎学期実施した。 研究授業 12回実施	各学期2回以上の確認テストを実施し、学習内容の定着が一定程度みられた。	
		③-2 年間学習指導計画の充実と、学習達成目標を整理した上で、生徒の理解を重視した分かりやすい授業を展開する。【教務情報課】	③-2 年間学習指導計画を毎年見直し、習熟度別授業や少人数授業を取り入れた、単位制の特性を生かした教育課程を編成した。 単位制をいかした教育課程の充実度:85%	年間12回の研究授業によって、授業の質向上に繋がっており、教員間の学びが深まった。 生徒の実情に即した教育課程を編成し、理解度に応じた指導を行ってきた。今後は、ICTをより効果的に活用し、教育効果の向上を目指して指導方法の改善を進めていく。	
④ 生徒の興味・関心・適性に応じて科目を選択できる単位制の教育課程	④ 授業評価アンケートにおいて、生徒の授業満足度80%以上を目指す。【教務情報課】	④ 12月に授業評価アンケートを実施した。 授業の説明のわかりやすさ:87%		授業評価アンケートにおいて生徒の満足度が87%に達しており、継続的な授業改善の取組が一定の成果として表れている。	
⑤ 高い志と明確な目的意識を持って自ら学ぶ意欲と行動力を育成	⑤ 全学年を対象に、学期末などを利用して、外部講師を招聘し、大学や専門学校での学びを体験する機会を3回以上設ける。【進路指導課】	⑤ 7月に2・3年生を対象に、3月に1・2年生を対象にした体験型の進路ガイダンスを延べ4回実施した。また、1年生を対象に12月は高大連携の出張講座を実施した。		進路ガイダンスに参加したことで進路先を具体的に考えることができた生徒が増加した。また、7月の3年生対象の面接講座では、生徒の面接試験に対する意識が高まった。	<p>○ 評価規準の明確化と周知に引き続き取り組むとともに、説明会や資料の工夫を通して、評価に対する生徒・保護者の理解を深めていく。</p> <p>○ 授業で使用する教材の充実を図るとともに、確認テストの内容や活用方法を工夫し、学習効果の向上につなげていく。</p> <p>○ 研究授業の質の向上と教員間の協議を充実させる。授業後の振り返りを強化し、指導方法や教材の共有を促進する。</p> <p>○ 習熟度別・少人数授業を毎年度工夫しながら実施し、指導内容の精査と生徒の反応に基づく柔軟な対応の充実を図る。</p> <p>○ アンケート結果を分析し、生徒の意見を反映した授業改善を継続する。</p> <p>○ 就職生に向けて、企業の方にもガイダンスに参加していただき、生徒が様々な職業分野について知る機会を増やす。</p> <p>○ 進路適性について客観的な所見を得られる外部機関の検査を今後も取り入れて、進路目標を明確化し、目標達成のための学力向上に繋げる。</p> <p>○ インターンシップの実施時期や方法について見直しが必要と思われる。</p>

<p>⑥ 早期に勤労観や職業観の育成を図る</p> <p>⑦ 文学に親しみ、心豊かな人間を育てる</p> <p>⑧ ICTを活用する力と、社会に貢献しようとする公共心の両方を育む</p> <p>⑨ 教育DXを見据えた校内研修と実践の一体化</p> <p>⑩ 主権者教育の充実</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 授業評価結果の活用</p> <p>② 進路検討会の実施</p>	<p>⑥ 2年生でインターンシップを実施し、勤労観や職業観を養い、将来の職業選択の幅を広げ、自らの進路選択に役立てる。【進路指導課】</p>	<p>⑥ 2年生が10月にインターンシップを各事業所で実施した。また、アカデミックインターンシップとして大学と専門学校の体験授業に参加した。</p>	<p>インターンシップは10月に実施したため行事や中間考査もあり事前準備期間が十分ではなかった。教員生徒ともに負担が大きかった。行事等を除き、「朝の読書」を実施することができた。</p>	<p>○インターンシップの時期は、準備を前から始めて、実施は1・2学期末テスト後とか、夏休み中がいいのではないかな。</p> <p>○今後も生徒の実情に即して、習熟度別や少人数授業を実施してほしい。</p> <p>○板野町の魅力発見の授業は地元住民として、たいへんありがたい。</p> <p>○一人当たりの図書貸し出し数の低下が気にかかる。小学生から大人まで読書離れが進んでいるようで、何とか歯止めをかけられないかな。</p>
	<p>⑦ 朝のSHR前の10分間「朝の読書」を実施する。【総務図書課】</p>	<p>⑦ 朝のSHR前に10分間の朝読を予定通り実施した。</p>	<p>生徒用タブレットの校内活用を中心に環境整備を行い、安定した運用につなげていく。</p>	<p>○一人当たりの図書貸し出し数の低下が気にかかる。小学生から大人まで読書離れが進んでいるようで、何とか歯止めをかけられないかな。</p>
	<p>⑧ 教室でのタブレット活用を日常化し、学習効果の高い活用方法を定着させる。【教務情報課】</p>	<p>⑧ 生徒端末を校内で適切に活用できる環境を整備するとともに、生徒の情報活用能力の向上を図った。</p>	<p>各学期1回以上のICT研修を実施し、教員のICT活用スキルの向上につなげた。</p>	<p>○タブレットの配備を進め、校内での円滑な活用に向けた環境整備を行う。</p> <p>○教員のニーズに応じた研修を実施し、授業での具体的な活用事例を共有する。</p>
	<p>⑨ ICTツールや教育のデジタル化に関する教職員研修を各学期に計画的に実施し、日常の授業実践に活かす体制を整える。【教務情報課】</p>	<p>⑨ 各学期1回以上のICT研修を実施し、教員のICT活用スキルの向上につなげた。</p>	<p>新聞やインターネットのニュースを分析し、情報の真偽を調べる機会を持った。今後はさらに深い考察力を養っていきたい。</p>	<p>○ニュース分析の機会を増やし、考察を深める。具体的な事例を用いた討論を取り入れ、批判的思考力を強化する。</p>
	<p>⑩ 社会参画を意識した体験的な学習を計画的に実施する。【地歴公民科】</p>	<p>⑩ 新聞やインターネットからニュースを分析し、情報の真偽を調べる。フェイクニュースの見分け方を理解し、批判的思考を向上させる。</p>	<p>各教科で授業評価アンケートを分析し、生徒の学習意欲の向上につながる授業改善を検討していく。</p>	<p>○授業評価アンケート結果を授業改善にいかすため各教科で具体的な改善点を共有し生徒が主体的に参加しやすい授業づくりを進める。</p>
	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	<p>① 12月に授業評価アンケートを実施した。 授業の説明のわかりやすさ:87%</p>	<p>○高校教育課が行っている企業バスツアーがあるが、時期が悪くて生徒が参加しづらい。企業から学校の方へ出向いて行くことも考えていると企業の方から聞いた。探究学習に組み込めないかな。</p> <p>○受験に関するさまざまなルールの説明会、模試を実施するなどして、教員・生徒間における情報共有を図る。</p>
	<p>① アンケート結果を基に授業づくりの工夫を教科内で共有・実践し、継続的に見直す仕組みを構築する。【教務情報課】</p>	<p>① 12月に授業評価アンケートを実施した。 授業の説明のわかりやすさ:87%</p>	<p>出願方法の変更への対応に追われ、ゆとりを持って受験準備することができなかったが、情報を共有し指導方針を統一することはできた。</p>	<p>○受験に関するさまざまなルールの説明会、模試を実施するなどして、教員・生徒間における情報共有を図る。</p>
	<p>② 3年生の希望進路に関して進路検討会を実施し、学年団で情報を共有し、教員の経験年数によらず、生徒に的確な指導ができるようにする。【3学年】</p>	<p>② 就職・進学に関する情報を検討会、職員朝会等を利用して共有し、学年での指導方針の統一を図った。また個別の案件については回覧をするなどして情報共有に努めた。</p>		

③ 意欲ある生徒のための補習や模擬試験を実施	③ 進路希望に応じて必要な学力が身につくように、全学年で補習や模擬試験を実施する。3年生は進路に合わせて、各教科開設する。【進路指導課】	③ 年間を通じて朝補習、放課後補習、長期休業中の補習を実施した。二学期末考査後には、共通テスト受験者対象の補習も行った。また、進路先に応じての個別指導も行った。	1,2年生の補習受講者や模試の希望者が減ってきている。 3年生は昨年度より補習や模擬試験に参加する生徒が増加し、大学入学共通テスト出願者は10名であった。国公立前期合格者2名であった。	○1,2年生の補習受講者や模試の希望者が減ってきていることや、PTA家庭教育研修会への保護者の参加数が少ないことについて、教えてほしい。	○ 進路希望者には、進学先でも学力が必要なことを常に理解させた上で補習については、生徒がその効果を実感できるような実施の方法や内容を検討したい。
④ 生徒、保護者の希望進路の実現	④-1 進路だより『ONE'S WAY』や『進路の栞』などを通じて、進路に関する情報を発信する。PTA総会時に、保護者対象の進学や就職の説明を実施する。【進路指導課】	④-1 進路だより『ONE'S WAY』は、大型連休や長期休業前に各学年別に年4回発行した。また、『進路の栞』などを通じて、進路に関する情報を伝えた。	保護者に生徒の学業成績や進路情報などに早期から関心を持ってもらうことが、生徒の学校生活でのやる気を高めることにつながると感じる。	○1・2年生の補習受講者数や模試希望者数、またPTA家庭教育研修会への保護者参加数の減少については、学校内部の要因のみならず、SNS文化に象徴される社会的風潮の影響も背景にあると考えられる。努力や継続を要する取組よりも、即時的な成果や利便性が重視される傾向が広がる中で、学習機会や研修参加の意義をいかに明確に伝えるかが重要である。今後は、参加することによる具体的なメリットや成長実感を、より分かりやすく発信していく工夫を期待したい。	○ 3年生で納得のいく進路選択ができるよう、保護者への情報提供や相談、進路説明会等の機会を増やす。
	④-2 PTA家庭教育研修部で県内外の大学・専門学校・企業等を訪問して研修を行い、家庭教育の充実に努める。【進路指導課・総務図書課】	④-2 PTAの行事として、徳島文理大学高松駅キャンパス、自衛隊善通寺駐屯地を訪問して研修を行い、家庭教育の充実に努めた。	PTA家庭教育研修会への保護者の参加数は少なかったが、充実した家庭教育研修であった。		○ 研修に参加する保護者の数が減少し続けているため、家庭教育研修会の実施形態を変更する。
	④-3 奨学金の案内や申込みについて周知を徹底し、丁寧に説明する。【進路指導課】	④-3 日本学生支援機構奨学金等の案内や申込みについて丁寧に説明し手続きを終えた。			
⑤ 「キャリアパスポート」の活用	⑤ 様々な体験活動を記録し蓄積し、自分の頑張りが成長を認めることができる。【進路指導課】	⑤ 高校版キャリアパスポートの様式を用いて、様々な体験活動を記録し、蓄積した。	タブレットを活用した公開授業を実施し、授業研究と教員のスキル向上に努めた。	○徳島工業短期大学が間に入って、企業と高校生をつなぐ支援ができる。	○ タブレット活用の更なる充実と効果的な指導法を確立させる。活用事例を共有し、実践的な研修を充実させる。
⑥ タブレットを活用した主体的・対話的で深い学びの実現	⑥ タブレットを効果的に活用した授業実践の共有や検証を通して、教職員の指導力向上と生徒の学びの質の向上を図る。【教務情報課】	⑥ 研究授業や日常の授業を通して、タブレットを活用した指導を行い、ICT活用スキルの向上を図った。	受験者数は多くない中で校内資格試験を実施し、学習への意識向上につながる成果がみられた。		
⑦ 校外の講座等の参加、各種資格取得	⑦ 資格試験を校内で積極的に実施、また支援を強化し、学修認定で意欲向上を図る。【教務情報課】	⑦ 英検、漢検、情報検定等、生徒のニーズに応じて可能な限り、校内で実施した。	学校行事の精選・見直しにより、授業時間数の確保ができた。今後、さらに効率的に授業時間を活用し、授業時間の確保に努める。	○英検や漢検・情報検定の受験に際して、費用を一部補助する制度を設けてみてはどうか。	○ 受験者数・取得者数の増加を目指す。試験の事前準備とサポートを強化し、生徒への周知と動機付けを継続する。
⑧ 学習時間の確保	⑧-1 行事の見直しを継続し、授業時間の更なる確保と学習の質の向上を図る。【教務情報課】	⑧-1 学校行事の日程や事前準備の日程を見直し、授業時間の確保に努めた。		○地域をよくしたいと思っている団体や企業等と一緒にやっていかないと、学校だけで行うのでは教員が疲れるのではないかと。	○ 授業時間の確保と学習内容を充実させる。学校行事のさらなる精選を進め、効率的な授業運営と内容の充実を図る。
	⑧-2 週末課題の実施等で学習時間を確保する。【学年・教科】	⑧-2 1,2年生において英数国の週末課題を出し、家庭での勉強時間の確保に努めた。	週末課題の提出は概ねできているが、学力向上に繋がっているとは言いがたい。		○ 生徒の学習意欲向上のための新たな取組を模索し、実践する。

	<p>⑨ 図書の貸し出しの推進</p> <p>⑩ 「エシカル消費」の発信普及</p>	<p>⑧-3 手帳等を活用し家庭学習の習慣化と学習時間の確保を図る。【学年】</p> <p>⑨ 入学時のオリエンテーションや読書マラソン等で、読書を促すとともに、「図書館便り」を発行し、本の紹介をする。 一人当たりの貸出数4冊以上。【総務図書課】</p> <p>⑩ 1年次を中心に、総合的な探究の時間をより深化させ、校外外での啓発活動を行う。【学年】</p>	<p>⑧-3 手帳を利用し、週末課題や受験のスケジュールを管理するよう呼びかけた。</p> <p>⑨ 入学時のオリエンテーションおよび国語科と協力した図書館オリエンテーションで図書館の利用の仕方を説明した。「図書館便り」は8月を除き毎月発行し、本の紹介を行った。 一人当たりの貸出数 2.2冊(昨年度4.1冊)</p> <p>⑩ 1年次では、3班に分かれ、地域の方々へ協力を頂きながら、板野町の魅力を発見するとともに、効果的に発信する方法を学ぶ探究活動を行った。</p>	<p>一部の生徒は手帳を有効に活用し計画的に学習しているが、多くの生徒はメモをとることの習慣化ができなかった。</p> <p>オリエンテーションを行うことで、図書館の利用につながることができた。「図書館便り」を通じて本の紹介を行った。</p> <p>1年次では、高校生の視点から、板野町の魅力を発見するとともに、効果的に発信する方法を学ぶ探究活動を行うことができた。</p>	<p>○ 基礎学力の定着に向けたスケジュール管理の方法について、手帳利用以外の方法を検討する。</p> <p>○ 読書場慣れが顕著になっているため、朝の読書の時間、授業以外でも本にふれることができる機会をふやす方法を考えていく。</p> <p>○ 地元の企業を取材して、紹介のリアル動画を作るのがどうか。</p> <p>○ 板野町の課題について地域との連携をさらに充実したものにする。</p>
<p>特別活動・人権教育の充実</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>① 行事や部活動を通して連帯感や奉仕の精神に基づく実践的社会性を育成</p> <p>② 豊かな人権感覚を持った調和のとれた人間性と自主共同の精神を涵養</p>	<p>評価指標</p> <p>① 生徒会活動や部活動で役割や責任を果たすことで、生徒会や部の一員としての意識を高め、支え合いながら、よりよい人間関係を築く。 部活動加入率 60%以上【特別活動課】</p> <p>② 人権学習HR活動を各学年6回実施する。【人権教育課】</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 生徒に役割を与え責任を果たさせることで、生徒会や部の一員としての意識を高め、連帯感や奉仕の精神を高めることができた。 部活動加入率 52%</p> <p>② 人権学習HRは人権問題意見発表会を含め6回実施。そのうち郡人研大会にむけて、1つの人権課題について2時間かけて授業を展開した。また拉致問題に関する特設の人権学習HRを実施した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 生徒会活動は、役員が1・2年生44名となり、前向きに取り組んでいる。部活動も半数の生徒ではあるが積極的な取組が見えた。</p>	<p>○不登校傾向の生徒への対応で、本人の希望を聞きながら別室登校の対応をされているが、単位認定など、苦勞をされているのではないかと。</p> <p>○12月上旬に町人権問題講演会があり、高校生・中学生・小学生も参加している。小学生の人権劇がとても素晴らしく、いつも刺激をもらっている。</p> <p>○今後も前向きで主体的な生徒会活動の充実を期待したい。生徒会活動で培われる経験や人間関係は、高校在学中だけでなく、卒業後の人生においても大きな財産となるものである。板野高校で築いたつながりや協働の経験を、実社会に出た後も有益に生かせる仕組みづくりについて検討していただきたい。例えば、生徒会活動を軸とした卒業後のネットワーク形成なども一つの方策として考えられる。高校時代の学びと人とのつながりが、将来にわたる拠り所となることを期待する。</p> <p>○現実生活の中で、生徒自身が、その役割や責任を果たすことに繋がると考える。引き続きの取組を期待している。</p> <p>○生徒会活動や校外の活動を通じて、生徒の社会性や協調性の育成を促す姿勢は評価できる。</p>

	<p>③ 多様性を認め、ともに学ぶ取組</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>① 不登校傾向の生徒の学びの場の保障</p>	<p>③ 人権問題意見発表会や人権委員会の活動を充実させ、生徒が自他の人権について考える機会を持つ。【人権教育課】</p> <p>活動計画</p> <p>①-1 本人の希望を聞き、別室登校の措置をとる。【環境厚生課】</p> <p>①-2 スクールカウンセラーや専門機関等と連携をとり、学年会、環境厚生課等で共通理解を図る。【環境厚生課】</p>	<p>③ 全校生徒が人権作文に取り組み、校内意見発表会を通して人権意識の向上に努めた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 学年会等で不登校傾向の生徒の現状や対応への共通理解を図り、家庭訪問や保護者との面談等で本人の希望を聞きスクールカウンセラーと連携して対応した。</p> <p>①-2 徳島県精神保健センターの思春期外来や児童相談所等と連携し、本人の特性等を共通理解したり、一時的な教室移動などの配慮を行った。スクールカウンセラーからも多くの助言をいただき、教職員間で共通理解を図った。</p>	<p>郡人研大会などの研究授業などを通して、生徒の人権意識や行動力を育成する取組の充実に努めた。板野町人権問題意見発表会にも昨年度に引き続き代表が参加した。</p> <p>一学期は毎月のように転学者がでたが、生徒が社会と切り離されないようにしていく必要が今後もある。別室登校については、教室への復帰につながった。</p> <p>児童相談所との連携は、該当をする生徒の幼少期からの状態を知るうえでとても大切であると感じた。</p>	<p>○生徒が自ら人権問題を考えるために、学内授業に留まらず、引続き地域や外部の組織と交流を深めて欲しい。</p> <p>○別室登校が教室への復帰につながっているのは素晴らしいと思う。</p> <p>○町内の行事などに、積極的に生徒が参加されている姿を見かけ、私だけでなく周りにいた町民の方が、板野高校の生徒の感じが良い、変わったと褒めていた。</p> <p>○現実生活の中で、生徒自身が、その役割や責任を果たすことで、仮想空間でのアイデンティティ確立に依存しないことに繋がると考える。引き続きの取組を期待している。</p>	<p>○ 特別支援教育に関する支援について、関係機関と連携を図りながら、教育活動を実施する。</p>
<p>広報の充実ならびに地域との連携・貢献の推進</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>① 日々の教育活動の成果を地域や保護者に伝える手段として、ホームページの充実</p>	<p>評価指標</p> <p>① HPの更新頻度を高め、新着情報を充実。年間200回以上の更新を目指す。【教務情報課】</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 学校行事等について、HP更新を速やかに行うとともに、さくらメールの送信を活用し、適切な時期での情報発信に努めた。更新回数200回以上を1月中に達成した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p>	<p>○ホームページの更新回数が、登校日数以上になってるのがすばらしい。次年度、「更新作業の効率化」とあるが、具体的にどのようなことを考えているか。</p> <p>○普通科高校の学区制の廃止により、各学校の魅力や特色が問われるようになる。板野高校が魅力ある学校になり、是非入学したいと思う中学生が増えることを期待する。そのためにも、日々の活動の成果を多くの方に知ってもらうためのHPを充実させること、インターンシップ(職場体験)やボランティア活動(板野駅や通学路の清掃等)などの地域貢献活動を新聞やTVにより幅広くアピールすべきと考える。</p> <p>○ホームページの更新やさくらメールの継続的な発信は、本当に素晴らしい取組であり、学校の姿勢と努力がよく伝わってくる。ぜひ今後もこの発信力を、板野高校への信頼の積み重ねにとどめず、新たな地域活動や企業・団体との具体的な連携を生み出す力へと発展させていただきたい。</p>	<p>○ 学校行事をはじめとする学校の取組や様子が分かりやすく伝わるよう、HPの内容の充実を図るとともに、更新作業の効率化を進め、適切なタイミングでの情報発信を行う。</p> <p>○ お接待を年2回実施するために、実施時期を再考する。</p> <p>○ 委員の方々を通して情報や人脈を拡げ、生徒が参加できる地域での活動を充実する。</p>

<p>② 地域に愛着を持ち、様々な課題の解決に立ち向かう実践力の育成</p>	<p>② ボランティア活動への積極的な参加を募り、通学路清掃や「お接待」などの地域貢献活動を各年2回以上行う。【総務図書課】</p>	<p>② 地域研修として、道の駅「いたの」の防災施設を見学し、防災意識を高めた。通学路清掃は、7月と12月に実施した。「お接待」は雨天のため5月は中止とし、第3番札所「金泉寺」で10月に実施した。</p>	<p>(所見) HPの更新回数は昨年度よりも増えている。今後も更新頻度を増やし、新着情報を充実させてより多くの情報提供を目指す。</p> <p>通学路清掃は2回実施できたが、雨によりお接待が1回しか実施できなかった。</p> <p>委員の方々からお声を頂き、地域とつながる機会を増やすことができた。</p>	<p>○企業や団体も、ホームページやSNSでの発信を怠れば生き残れない時代である。学校もまた、発信することで価値を示し、選ばれる存在になることが求められている。学校・企業・団体が目指す方向を共有できれば、しっかりとした座組を組み、互いの強みを生かしながら相乗的に発展していけるはずである。広報を「情報提供」で終わらせず、「新しい連携を生み出す戦略」としてさらに磨き上げていくことを強く期待したい。</p> <p>○お接待等を通して、地域の住民以外に県外の方や外国の方にも、板野高校の生徒の頑張りを好意を持って受け止めていただけているようだ。</p> <p>○HP更新回数が増えており、学校全体がアクティブである印象を受ける。今後も、負担増とならない範囲で発信していただきたい。</p>		
<p>③ コミュニティ・スクールの充実</p>	<p>③ 学校運営協議会との連携を強化し、地域とつながる活動を実施する。 実施回数 3回以上【管理職】</p>	<p>③ 学校運営協議会委員の方々につないでいただき、地域とつながる活動が増えた。</p>		<p>○地域行事やボランティアに積極的に参加しており、地域からの信頼構築につながっている。HPの更新が年間目標を達成でき、なにより、お接待の時期設定は難しいと思うが、雨天順延とか予備日を設けるのがよいのではないかと。</p>		
<p>働き方改革と人材育成の推進</p>	<p>(全校レベル)</p> <p>① ICT活用の推進</p>	<p>評価指標</p> <p>①-1 ICTの活用と勤務時間の客観的な把握により在在校等時間の縮減を図る。 昨年度比 10%減【管理職】</p> <p>①-2 さくら連絡網の利用状況を定期的に把握し、全生徒および保護者への連絡手段の一元化を図る。 生徒の登録率 100% 保護者の登録率 90%以上 【教務情報課】</p> <p>①-3 職員会議等においてICTを活用した資料共有を試行しつつ、必要に応じて紙媒体も併用し、情報の確実な共有とICT活用の両立を図る。 活用度 100%【教務情報課】</p> <p>② 学校及び教職員が担う業務の明確化・適正化</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①-1 時間外勤務 45時間以上 R7延べ33名(R6 35名) 80時間以上 R7延べ7名(R6 0名) 昨年度比45時間以上%94.3% に減少80時間以上は増加(前年0なので比率ができません)</p> <p>①-2 さくら連絡網の登録率 生徒登録率90.7(昨年度85.4)% 保護者登録率96.8(昨年度92.7)%</p> <p>①-3 職員会議では電子媒体で文書を配付し、ICTを活用する。 活用度 100%</p> <p>②-1 通知文等は端末の掲示板やさくら連絡網を活用して教職員間で情報共有した。</p>	<p>総合評価 (評定) B</p> <p>(所見) 緊急連絡網登録率1年97.6%2年81.2%3年84.4%と1年の登録率が高い。毎学期未登録家庭には登録用紙配布した。</p> <p>職員会議でのICT活用による文書配布は多くの課で実施され、効果的に活用できた。</p> <p>県教委からの文書や通知文、案内は掲示板を活用するよう努めた。</p>	<p>○時間外勤務80時間以上の方が、R6より増えている理由があるか。ただ、月平均1名ほどであり、よく対策ができています。効果のあった対策を教えてください。教員の幸せは生徒の幸せにつながるため、引き続きお願いしたい。</p> <p>○時間外勤務が80時間以上の教員数が少ないが、特別な取組があるのか。</p> <p>○先生方が、頑張り過ぎず、生徒と向き合ってもらいたい。生徒一人一人の物語に寄り添い、共に歩いて欲しい。</p> <p>○教育分野は、タイパやコスパなどを図ることが難しく、又そのことによりマイナス要因として働く側面もある。このあたりのバランスを取りながら、推進を図っていただきたい。</p> <p>○教職員の業務負担軽減に向けた取組を進めている点は評価できる。</p>	<p>○校務の見直し、部活動の時間制限などの対応を引き続き行っていく。</p> <p>○スマートフォン所持の家庭へも確実に連絡が届くようにする。(生徒、保護者どちらかの登録では100%を維持)</p> <p>○ICTの活用を教職員に徹底するとともに、活用方法の更新研修を適宜行い続ける。</p> <p>○生徒にとって望ましいスポーツ・文化環境となるよう、適正な運営体制を維持すると共に、施設設備面の充実を図る。</p>

③ 次世代を見据えた人材育成	②-2 「部活動活動方針」を策定し、部活動の運営適正化を図り、体罰等の不祥事のない生徒にとって望ましい活動環境になるようにする。【管理職】	②-2 「部活動運営方針」を策定し、部活動は平日2時間程度、休日3時間程度を原則とした。	公式戦や練習試合の日を除き、概ね適正に運営できおり、定期的な休養日の設定により活動と休養のバランスがとれている。	○ICTの活用により一定の効果が窺える、ICT担当者に負担とならないように組織的な運用に取り組んで欲しい。	○ 教職員一人一人が自分事としてコンプライアンス意識を向上できるように、研修の充実や職場環境づくりを推進する。
④ コンプライアンスの推進	③ 学年会や分掌の中で、徳島型メンター制度による若手教員の育成を行う。【管理職】	③ 各学年団で、学年主任を中心に情報を共有し共通理解を図り、連携して取り組んだ。若手教員には丁寧な助言・支援を行い、育成に努めた。	学年団を中心とした板高版メンター制度はよく機能している。	○働き方改革の状況が昨年度より前に進んでいる。今後も生徒と向き合う時間が増えるよう、ICTの活用等進めていってほしい。改革を進めることで先生方が十分なリフレッシュを行い、元気に日々の業務に取り組んで欲しい。人材育成も中堅・ベテランの経験値をうまく若手に伝えていけているのではないかと。また、防災クラブを部活動に位置づけ、担当者に特殊業務手当がつくようにすればよい。他にも幅広く人権・ボランティア・国際交流等の活動の引率教員に特殊業務手当がつく手立てはないのか。	
	④ コンプライアンス推進計画を着実に実施すると共に、定期的にチェックリスト等を活用して、コンプライアンス意識の向上を図る。【管理職】	④ コンプライアンス推進計画に基づきケーススタディーや質問形式も交えて研修を行い、情報の更新をした。	ICTの利用に加え紙媒体も活用して研修を行うことで随時アップデートができた。	○板高版メンター制度の具体的な内容についてはさらに知りたいところであるが、制度が円滑に機能している様子から、良好な職場環境づくりの一因となっていることが伺える。働き方改革と人材育成は表裏一体であり、安心して挑戦できる環境があつてこそ教職員の成長が促されるものとする。	

「評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった